

株式会社Fujitakaは
未来ある学生を応援しています！



株式会社Fujitaka

本社：京都市下京区東塩小路町606
三旺京都駅前ビル7階
TEL：075-371-9900(大代表)
https://www.fujitaka.com
従業員数：271名(2025年9月末日時点)
設立：1975年1月10日
主な事業内容：省力化機器製造・販売・設置・修理、
コインランドリー事業提案、機器販売、分煙機器販
売、福祉機器販売・メンテナンス、商業施設設計・施
工、ドローンスクール運営など



JOB INFORMATION

正社員募集

「『おっちゃんとおばちゃん』の求人広告を
見ての応募です」とお伝えください。



文理不問

専門学校
卒業生歓迎

【職種】■営業職：システム関連 事業化提案 分煙提案
店舗開連等 ■技術職：フィールドエンジニア/ソフトエン
ジニア(いずれも文系出身者活躍中)設計 施工等 ■事務職：
人事総務・経理会計・企画
【応募資格】高卒以上、普通運転免許
【給与】大卒初任給 220,000円 短大、専門卒初任給
196,000円
【昇給】年1回、賞与年2回
【諸手当】通勤手当、扶養手当、住宅手当、資格手当、役付
手当、単身手当、職務手当、赴任手当
【勤務地】京都、大阪、東京、名古屋、福岡他
【勤務時間】9:00～18:00(実働8時間)
【休日】完全週休2日制(年間125日 有給時期指定取得日
5日含む)
【福利厚生】借上独身寮制度、企業独自の医療費扶助制度、
資格取得支援制度、退職金制度
【連絡先】株式会社Fujitaka
(人事総務課 西野・安原 ☎075-366-9954)
E-Mail:natsu-yasuhara@fujitaka.com

新卒採用を目的とした広報活動は、その年の内閣府提示の
日程に準じます(例・広報活動開始は卒業・修了年度に
入る直前の3月1日以降)。「在学中のみなさんが今年生
なのか」に応じて、時期によりお伝えすべき情報は変わります。
詳細は人事部に直接お問合せください。

修士2年 植平 隆暉さん



生物の多様性を研究。
今年は三重県藤原岳
の山道にカメラを10カ
所設置し、シカの相対密度を調査。「花の
百名山」でもある藤原岳の希少な植物を守
る対策やアプローチ方法を議論するために
データを集積中。

学部4年 奥戸 祐貴さん



高山植物への登山者の
意識変容を研究。「侵入
禁止看板」やロープを張
るといった規制ではなく、行動経済学の
ナッジ理論(罰則を用いずに人々の行動を
導く手法)を用いて、人々の自然愛護の意
識を高める仕掛けを考案中。

修士1年 三鬼 裕泰郎さん



生態系保全を専門職と一
般市民が一緒に行く未来
を目指して、スマホアプリ
を使った、市民の意識変容の研究をしてい
る。アプリ開発には情報理工学部とも協働。
「意識はあっても行動につながらない、を変
える挑戦をしています」。

修士2年 富岡 瑠加さん



国税として1人毎年
1000円払っている「森
林環境譲与税」の使
われ方に注目。間伐や人材育成がその主な
用途とされるが、その妥当性を研究する。
「グリーンインフラを推進するような、使わ
れ方になってほしいです」。

ドローンは 研究・実践にも役立つ

西田研究室では、今年は山岳調査
のためにドローンを3機購入したが、
まだ活用しきれいていないと話す。
それに対して、株式会社Fujitakaは、5年前から「ドローンパイロ
ットスクール」を運営、飛行講習ほか、
測量や物流、農業、建築土木、防災
といったドローン事業の実演や業務も
請負う。菊田さんは話す。
「深い山や高いビルなど、人が行く
ことが難しい空間を撮影し、物資運
搬など人力軽減にも大きな力を発揮
するのがドローンです」。
同席した株式会社Fujitaka
aの竹鼻さんは、ドローン事業課主
任・スクールの教官だ。太陽光発電
のメンテナンスにもドローンが活用
されている実績を紹介する。

菊田さんはこう話す。
「西田先生のお話で、グリーンイン
フラという、ワクワクするような事
業モデルのヒントをいただいた。次
回はぜひ弊社のドローンスクールで
の体験を、研究に役立てていただ
きたいです」。



【後列左から】株式会社Fujitaka 事業統括本
部ドローン事業課主任・竹鼻美咲さん、取締役
店舗事業本部長・菊田さん、経営管理部人
事総務課・安原梨都さん
【前列左から】奥戸さん、三鬼さん、植平さん

Fujitaka 大学レポート

グリーンインフラを研究する

京都産業大学 生命科学部を訪問！

ものづくりメーカー＆商社である株式会社Fujitaka。10月
に京都産業大学生命科学部の西田貴明先生の研究室
を訪問し、グリーンインフラとビジネスについて語った。

自然と人に関する問題、
解決策としての
グリーンインフラ

株式会社Fujitakaは、飲食
店の券売機やテマパーク施設の入退
場ゲート機、商店街のアーケードなど
商業・公共空間をプロデュースする「も
のづくり」の総合商社だ。木造建築の
コインランドリーや太陽光発電などS
DGsに配慮した製品も扱い、環境事
業に造詣が深い。株式会社Fujitaka
からは菊田さん、安原さん、竹
鼻さんの3人が研究室を訪問、西田
先生と学生4人が迎えた。

西田先生はグリーンインフラ(下図
参照)についてこう話す。

「いま全国的に過疎化による森林
の荒廃、農地の放棄、頻発する豪雨
災害など、自然と人に関するさまざ
まな問題が起きています。その解決
策として注目されるのが、自然の機
能を活用した環境整備や土地利用を
考えるグリーンインフラ政策です」。



株式会社Fujitaka
取締役 店舗事業本部長
菊田 資士 さん

大学院で生態学を研究し、博士号を
取得。卒業後は大手銀行のシンクタン
ク(政策立案や提言をする専門機関)
で10年勤めたのちに、研究者となった。
だからこそ、西田研究室では生命科学
・生態学という理系分野と、経済・政
策学の要素を掛け合わせたフィールド
ワークを重視している。

いま、西田研究室で力を入れている
のが「いなべグリーンインフラプロ
ジェクト」。包括連携協定を結んだ三
重県いなべ市で、2023年から始
まった。学生たちは、各々分担するテ
ーマ(左頁上参照を調査するために、
ほぼ毎週いなべ市を訪れている。
菊田さんは「グリーンインフラと
いう着眼に、ビジネスの可能性を感じ
る。机上の空論に終わらず、既に
自治体とともに進められている点に
説得力を感じました」と絶賛。
西田先生は「取り組みを持続可能
にするためには、経済・市場の視点
が不可欠です。現在は生物多様性の
保全のための調査段階ですが、社会
実装を先導、社会課題を解決してい
きたい」と意気込みを語る。



京都産業大学
生命科学部 産業生命科学科
教授
西田 貴明 さん

グリーンインフラとは

グリーンインフラとは、自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可
能な社会と経済の発展に寄与するインフラ(社会)や土地利用計画のこと。
発祥はヨーロッパ。少子化や過疎化などで荒廃する地域を、グリーンインフラ
政策で持続可能な地域にすることで、防災や減災、自然環境の保全といった
社会問題の解決を図ることを目指し、国土交通省が後押ししている。